保護者の皆様

札幌市立新陵小学校
校　長　田中　義直

令和8年度 全国学力学習状況調査の結果について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、6年生を対象に実施されました文部科学省「全国学力・学習状況調査」について、本校でも調査結果と課題、改善の方向性を検討いたしましたので、保護者の皆様にご報告いたします。検討内容は今後の学習指導に活かしてまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

◆国語の結果について

≪概要（領域別）≫

「言葉の特徴や使い方に関する事項」
◆全国平均を下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」
◆全国平均を下回っている。

「話すこと・聞くこと」
◆全国平均を下回っている。

「書くこと」
◆全国平均を下回っている。

「読むこと」
◆全国平均を上回っている。

≪今回の調査における課題≫

○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
○比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
○考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること。
○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
○引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

≪改善の方向≫

○「話すこと・聞くこと」において、自分の考えを相手に伝える活動や、その表現のために比喩や反復など表現の工夫を行う学習活動の充実。

○情報を集めるだけで終わらず、共通点や相違点、原因と結果、考えと根拠などの関係を明確にする学習活動の充実。

○文や文章の中で漢字や仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意しながら書く活動の充実。

○「書くこと」において、自分の考えが伝わるように引用文を活用する学習活動の充実。

◆算数の結果について

≪概要（領域別）≫

「数と計算」
◆全国平均を下回っている。

「図形」
◆全国平均を下回っている。

「測定」
◆全国平均を下回っている。

「変化と関係」
◆全国平均を下回っている。

「データの活用」
◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

≪今回の調査における課題≫

○百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めること。

○整数と小数の減法の計算をすること。
○数を四捨五入して、概数で表すこと。

○示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できること。
○示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること。
○二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。

≪改善の方向≫

○公式を覚えて使うことにとどまらず、「何をもとにした割合なのか」「何を求めるのか」を図や言葉で確認し、数量の関係を式に表す活動の充実。

○計算技能の確実な定着を図るとともに、複数の情報を整理し、条件に応じて必要な数値を選択して活用する活動の充実。

○目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする学習活動の充実。

◆質問紙の主な結果について

全国平均より自己評価が高い項目	・自分で考え、自分から学習に取り組む。 ・先生が自分のよさを認めてくれている。 ・自分で学び方を考え、工夫する。 ・話合いを通じて考えを深める。 ・先生が分かるまで教えてくれる。 ・総合で ICT を使って情報を集め、整理・発表する。 ・自分にはよいところがある。 ・学校での授業は自分にあった教え方、教材、学習時間だった。
全国平均より自己評価が低く、課題となる項目	・いじめは、どんな理由があってもいけない。 ・違う意見を言っても否定されない。 ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。 ・国語の勉強が得意である。 ・算数で考え方を説明する活動が多い。

◆学校から

本校の国語では、文章の特徴を理解し、自分の考えをまとめる力に成果が見られる一方、情報と情報との関係を捉えたり、資料を活用して自分の考えを表現するための工夫をしたりする力に課題が見られました。算数では、帯グラフの読み取りに成果が見られる一方、小数の計算や割合、表の情報を読み取って、根拠を説明する力に課題が見られました。今後は、基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、図や表、文章などから情報を整理し、根拠を基に自分の考えを表現する学習を充実させていきます。

質問紙調査の結果から、児童が自分のよさを認め、主体的に学習に取り組む姿勢がうかがえました。特に、「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合や、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合は、全国平均を上回る結果となりました。また、友達との話合いを通して自分の考えを深めたり、教師の支援を受けながら学習内容の理解を深めたりすることについても、肯定的な回答が多く見られました。

一方で、異なる意見を表現しても否定されないという安心感や、いじめを許さないという意識については、引き続き育んでいく必要があります。また、自分に合った学び方を工夫することや、学習したことを整理して自分の考えを説明することについても、さらなる充実を目指します。

今後は、児童一人一人のよさや努力を認め合うとともに、互いの考えを尊重し、安心して自分の意見を表現できる学級づくりを進めていきます。さらに、学習の見通しをもち、友達との対話を通して考えを深め、振り返りを次の学習に生かす授業づくりに取り組むことで、児童が自らの成長を実感し、主体的に学び続ける力を育んでいきます。